第1回 経営セミナー開催

10月21日（火）14時から商工会議所3階第5会議室において、「第2回経営セミナー」（主催・経営研究委員会）が開催され、会員他40名が参加しました。講師は（株）さえら代表取締役・木谷義忠氏。講演の内容は次の通りです。

夢のある商品をさえらの創業から今日まで

株式会社さえら
代表取締役　木谷義忠

私は昭和49年に会社を創業いたしました。石油ショック後であり、今と同じような不景気な時代でしたが、当時はまだ私がゼロからスタートしても受け入れてくれる状況でした。

我々小売業は、今コンビニに追い詰められている状況です。コンビニは、どこにでもあるものを販売していますが、いつでも営業しているという付加価値でここまで浸透した訳です。私たちは、寝ないで仕事をするわけにはいきません。そこで、「どこにもない、夢を見れる楽しい商品」を開発しようと思いました。最初の商品は、ユーザーの立場に立ち、「自分たちが身につけるとしたら」という使用者の発想から出発しました。自分たちの主張を商品にどれだけもりこめるかーここから商品作りを始めたものですから、とんでもない値段のものができました。当時（23年前）ワコールのプリントもののショーツが150円の時代に当社のコットンの製品は、安いもので750円、高いものは2，000～3，000円になってしまいました。それでも他社にない製品ができあがったので、販売しようと営業活動を始めました。

当初から全国展開をしようと思っていたのですが、小資本で始めたため材料を仕入れ、商品化したころは出張に行くお金さえありませんでした。そこで、近くてお洒落感覚のある四国の高松へ行き飛び込み営業をしましたが、ただでさえ高い商品を仕入れてくれる店はありませんでした。仕方なく商店街で道行くお洒落な人を呼び止め、どこで下着を買うかアンケートを取り、そして商品を見せるとほとんどの人が欲しいといってくれました。そこで、アンケートの答えで多かった下着専門店へ行き、店のオーナーに「おたくのお客さんで○○さんとか△△さんとかがいらっしゃるはずですが、さっき当社の商品を見せたら欲しいと言っていましたよ」と言って強引に仕入れてもらいました。支払いも1週間でしてくれたので、次は東京の青山とも、商品が作れず納品できません。仕方なく銀行から借り入れをしました。前の勤務先の社長に保証人になってもらい、女房の実家に頭を下げ、従業員の実家の田んぼを担保にし、やっと300万円借りることができました。書類の手続きに手間取るので頭に来てしまい、ケンカしそうになりました。その時の銀行の融資課長が「金を借りることがいかに大変かを知ってもらうためです」と言いました。その時私は、今後は借金しないでやっていこうと決めました。

原宿にある有名な下着専門店へ行ったところ、どちらも大量に仕入れをしてくれました。東京の有名店が取り扱いをしてくれたことで、地方にも波及していきました。ところが、まだ資金に余裕がなく大量の注文がきて

サービス業の極意は
「商品プラス客の求めているサービスの提案」

その後、会社は順調に発展し、注文も増えたのですが、当時取引をしていた資材屋が小さかったため資材が思うように入ってきませんでした。そこで、大手の資材屋と取引を始めようと訪問したところ、「百貨店と取引していない会社とは取引をしない」と言われ、知り合いに紹介してもらいすぐに新宿の伊勢丹へいきました。下着売り場の課長（女性）に商品を見せたらすぐにでも欲しいと言ってくれたのですが、当時の百貨店はすぐに取引口座を開設することは難しく、他の業者を通して納品することにしました。ところが、現場の主任が他社と同様の「委託」という条件を出してきたので、部長に「伊勢丹は、お客さんが商品を買っても着なかったと返品をいってきても受けるのですか？自分たちがしないことを業者に押し付けるところとは取引できません」とお断りしたら、部長が「御社に限って買い取りにしましょう」とこちらの条件を呑んでくれました。しばらくして、伊勢丹を訪問したときにちょうど店内のディスプレイを変えていました。その時、「さえらの商品は返品できないので前に出すように」という主任の声が聞こえ、私は我が社の『商品は買い取り』という取引条件は間違っていなかったと再確認しました。伊勢丹と取引を始めたことで大手の資材屋とも取引ができ、生産を増やすことができました。

さえらブランドの廃止を決意

そして10年が経ち、創業10周年の式典の挨拶の中で私は、全お得意様の前で「さえらブランド」の廃止を発表したところ、皆様に大変お叱りを受けました。さえらブランド廃止のきっかけとなったのは、新聞のコラムに「三波春男のワンマンショー中止」が出ていたからです。ファンが歳をとりすぎて会場に来れなくなったからという理由でした。そこで、社員に三波春男のことをきくと知っているが古いという答えでした。使っている化粧品について尋ねたら、最近のブランドばかりで、以前からあるブランドは使わないのか？ときくと古臭いイメージがあるので使いたくないとのことでした。「さえらブランド」は、すでに10年も使っているのでこのまま使用し続けると同じようになると思ったので、国内での使用を中止したのです。同時に今あるブランドを1年に1割づ